

『トライ&チャレンジ』

# Try & Challenge

No. 36 号

今号は・・・

- ・ 定時総会のご報告
- ・ コロナで気づいた、「いままで足りなかった」こと
- ・ 子ども達と新型コロナ  
—彼らが過ごした特別な1年—
- ・ ウイルスは何がしたいのか？
- ・ コロナ禍、学校生活で感じること

## 定時総会が行われました

**去**る3月5日、「定時総会」が書面にて行われました。今年度の議案は、令和2年度活動報告及び決算報告、会則改定、役員の変更の報告、令和3年度活動方針と活動内容、令和3年度予算であり、すべてに会員の皆様の承認をいただきました。飯塚会長のもと役員の変更も行われ、完全な新体制に替わりましたが、新型コロナの影響はまだ当分続くことが予想されます。しかし、こうした中だからこそ、今まで何も考えずにただ行っていた日常の様々なことを見直すチャンスになるのでは？とも思います。本当に残したいものは何なのか、そのため今までの方法をどう変えていったら良いのかなど、あらためて皆さんと話し合う機会を持つことができればよいと考えております



**今**年の冬は新型コロナの影響か、インフルエンザの流行の話題を耳にすることがとても少なかったように思います。同じく、花粉の飛散も量が多いとは聞きましたが、花粉症でマスクをしているのか、感染対策でマスクをしているのかわからないような状態です。ソーシャルディスタンスを考慮した成人式や卒業式、入学式は、もう来年には日常の風景になってしまうのかもしれませんが。

## コロナで気づいた、「いままで足りなかった」こと

**私**の小学2年生の長男はコロナ禍になる半年くらい前から学校へ行きたがらなくなり、自宅で通信教育やドリルで勉強をしていました。小学校が休校になり、良かった点は「先生から学校へ来るよう催促がなくなったこと」と「平日昼間に外で堂々と出歩けるようになったこと」でした。学校が始まってからも「自主休校」させている親がいることを知り、義務教育は「家で勉強する」のか、「学校で勉強する」のか、いつでも選択できる世の中が普通になればよいのと思いました。あとは平日昼間に普段は外で働いている父親が在宅などで家にいる機会が多くなり、母親のワンオペ育児や、日中に未就学児とずっと一緒に過ごす大変さを共有できる人が増えたことはとてもよいと思います。私自身も8か月の三男がそろそろ抱っこだけじゃ嫌がり始め、長男や次男の学校行事になかなか長時間おとなしく参加することが難しくなってきた頃で、色々な行事がなくなったことに不謹慎ですが少しほっとしていました。今春から小学3年生になる長男は、このコロナ禍のおかげで、ズームでの授業や通信教育の幅が広がり、感染対策をして開催している少人数のリアルイベントや習い事へも行き始め、作冬からなんと学校へ毎日行けるようになりました！人生何が起こるか本当に分からないと思います。

さいたま市 三男児の母 相川綾香

## 子ども達と新型コロナ —彼らが過ごした特別な1年—

「ビデオレター 思いも言葉も映しだし 見送る春を 子らは工夫す」

恥ずかしながら、先日詠んだ歌です。学年末の「3年生を送る会」も「卒業式」も在校生の列席はかなわず、ビデオレターでのお別れでした。中学校で働いている私にとって、昨年一年間の学校現場は不思議な感覚とともにありました。3月から5月まで生徒の姿のない校内、登校が始まってからも、行事や大会は中止、もしくは縮小。黒板に向かって食べる給食、廊下に並んで待つトイレの順番…。子どもたちは戸惑い、憤りを感じながらも受け入れざるを得ない状況に順応していきます。日常なこととはともかく、学習面での能力や環境の差に不安や焦りを感じている子どもたちもたくさんいたはず。それは、中学生だけではなく、高校生、大学生にとっても。近い将来、この一年を彼らはどのように思い出すのだろう。地域や学校によって対策が異なったりと、子どもたちに確かな安心を与えられなかった私たちおとなもまた、後悔や反省とともに思いだすことになるのだろうか。卒業式の日、少し苦い気持ちで卒業生の顔を見つめた。

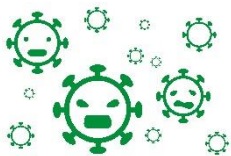
白岡市 さわやか相談員 片山玲子



## ウイルスは何がしたいのか？

人間社会は、コロナ禍と呼ばれる脅威に晒されています。人類の目線ではコロナ「禍」ですが、彼等の目線に立つと何が見えるのでしょうか？彼を知り己を知らねば、コロナとの戦いは負け戦となってしまいます。地球誕生40億年の歴史からすれば、僅か数百万年前に人類は誕生しました。その幼き人類は、都市部には有り余るほどの食料を流通させ、医療の発達により恐ろしい病魔も克服してきました。産業革命により都市は肥大化し、数多の新たな都市を誕生させました。蒸気機関の発明により都市間の移動が容易になり、後に化石燃料エンジンの発明により地球は狭き星となり、情報においてはインターネットの普及により、既に距離は意味の無いものとさえなりました。植物がミツバチに花粉を運ばせ、鳥にタネを運ばせて繁栄を行なっている事を考えると、やはり奇跡です。急速な繁栄は産業革命後の僅か数百年で行われています。その人類が、たった数年前に誕生した新型ウイルスによって脅威にさらされているのです。人類が築き上げた都市に蔓延し、人類が築き上げた移動手段にタダ乗りし、人類が築き上げた情報網をもってしても彼等を正しく知る事が出来ません。彼等は生命と呼べるものではないと人類は言います。しかし、個体に思考がなくとも集合体には意識がある筈です。より知的な生命体と共に移動し、より密集した都市に運んでもらう事で悪魔的な繁栄を成し遂げたのです。彼等は個体の思考を捨てて、集合体としての繁栄を成し遂げたのです。ならば、彼等の情報を知り得ていない人類は、個体が思考停止をせずきちんと考えて向き合う事が第一ではないでしょうか。

越谷市 NPO法人ヘルパー 辻純志郎



## コロナ禍、学校生活で感じること

高校では、感染対策の意識のあるなしの差が大きく、食事中に話さない、ソーシャルディスタンスを取るなどとも言われているのに守らないことについて、それを気にしている人もいることを考えてほしいなと思いました。うちの高校は入ったら遠足や体育祭、文化祭など様々な行事があったはずでした。1年生しかない勉強合宿では、クラスの仲を深めるなどの意味合いもあったはずなのにそれがなかったため、イベントがないとお互に関わろうとしない人も多い私たちの世代では仲間意識を持つことが難しいように感じました。コロナが今年で終わるのならばよいけれど、そういうわけではありません。この先もずっと行事はなくなってしまうのか、新しい行事ができるのか、そもそもの学生生活が変わることも予想されます。改めて思ったことは、協調性や人間としての基礎的な能力を養うために学校があるということです。ただ知識を学ぶだけなら、オンラインで十分だということはよくわかりました。ですがオンラインは物理的に可能というだけで、すべてが解決するわけではありません。学校に行く理由は人との関わりを学ぶ、ということにあるのかなと思いました。

春日部市 高校1年女子